

17 キャンプファイヤー



燃えさかる炎を囲んで、思いを共有しよう！

- 目的：協調性を高める。自然に親しむ。
- 対象：小学生(高)～
- 人数：200人程度
- 時間：1～2時間
- 経費：500円(薪代)
- 準備
 - <団体>
 - ・進行上の係分担，練習，音楽ソフト(BGM)，交歓会(2部)で必要な道具
 - ・ゲーム，歌，グループごとの出し物等の準備
 - <自然の家>
 - ・使用道具(トーチ等)の準備，ファイヤーの薪組み

キャンプファイヤーのすすめ方

●使用道具

トーチ、放送機器（CD、テープ対応）、火消し用バケツ、灯油、雑巾

●展 開

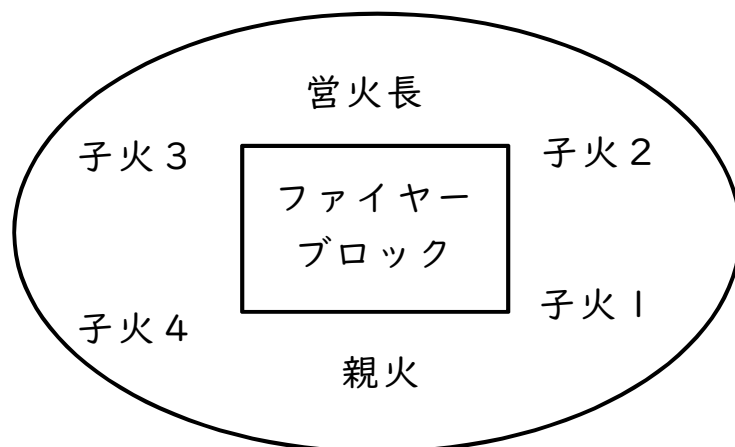
- ① 用具等の準備、集合、人員確認、健康観察
- ② 活動方法や注意事項の説明（リハーサル）
- ③ 活動
 - ・ 1部(迎え火の式)→2部(交歓のつどい)→3部(送り火の式)
 - ※別紙「キャンプファイヤーの展開例」を参照
- ④ 人数確認、後片付け
- ⑤ 活動のまとめ

●留意事項

- ① 火気の取扱いには十分注意する。
- ② やけどに注意する。（火やトーチの取扱い）
- ③ 振り返り(視点)
 - ・ 協調性、仲間との交流、自然への気づきなど

●活動のしかた ※キャンプファイヤーの隊形と入所前の係分担

役 割	担 当	活動内容
営火長(1人)	団体の代表者	第1部と第3部を行う。
親火(1人)	研修生	
子火(4人)	研修生	
司会(1人)	研修生	進行を行う。
ファイヤー キーパー(1人)	引率者	火の調整や後始末を行う。
感謝の詞(1人)	研修生	団体を代表して自然や仲間への感謝を述べる。
設営係(6人)	研修生	当日にキャンプファイヤーの準備をする。



司会者
感謝の詞

※係以外の研修生は円形

キャンプファイヤー展開例

※ 各系のセリフは、各団体の実態に合わせてアレンジしてください。
特に、分火の際の子火のセリフなどは、学校訓や学級目標などを入れてみましょう。

< 準備 >

- 司会者1人、営火長1人、親火1人、子火4人、感謝のことば係1人を決めておく。
(必要に応じて、音響係、第2部の進行係)
- 必要に応じて、雰囲気盛り上げのためのBGMの曲(遠き山に日は落ちて、燃えろよ燃えろ等)やCDデッキなどを持ってくる。

< 児童生徒の集合 >

- 児童生徒は、ファイヤーブロックを丸く囲む形で待機しておく。
(100人程度までは一重円、それ以上は二重円)
- 各系は、導入通路にトーチを持って、親火、子火4、子火3、営火長、子火2、子火1の順に並び待機する。
- 親火のトーチのみに火をつけておく。

< 第1部:迎え火の式 >

1 開会のことば 営火入場

- 司会者

ただいまから、(学校名・研修団体名)によるキャンプファイヤーを行います。 営火入場。

(必要に応じて、CDラジカセ等を使って、「遠き山に日は落ちて」などのBGMを流し雰囲気を盛り上げる。)

・各系は、間隔をあけてゆっくりと入ってきて、ファイヤーブロックを囲むように立ちスタンバイする。

2 営火にささげることば

- 司会者

親火は営火にささげることばをお願いします。

- 親火

私たち〇〇〇学校の〇〇人は、ここ県立南薩少年自然の家でキャンプファイヤーを開くことになりました。 一緒に活動しながら鍛えあい、学びあい、また寝食をともにする生活の中で、今まで知らなかった友達のすばらしい姿を発見し、さらに友情を深めることができました。 私たちは、この研修の機会を与えてくださったすべての方々に感謝し、仲良く楽しくいつまでも心に残るキャンプファイヤーにしたいと思います。 令和〇〇年〇〇月〇〇日 研修生代表〇〇〇〇

3 誓いのことば

- 司会者

親火は、子火に呼びかけて分火してください。

(親火は子火1の前へ移動する)

- 親火

(礼)強い心と体の持ち主になるために

(親火は子火1に分火する)

○ 子火1

私たちは、心と体をきたえ、どんな苦しみにも負けず最後までやりぬく強い心と体の持ち主になるように努めます。(礼)

(親火は子火2の前へ移動する)

○ 親火

(礼)豊かな心の持ち主になるために

(親火は子火2に分火する)

○ 子火2

私たちは、自分のことだけでなくいつも他人の立場を考え、親切で思いやりのある温かい人間になるように心がけます。(礼)

(親火は営火長の前で一礼して、火を分けて次へ。子火3の前へ移動する)

○ 親火

(礼)いつまでも変わらない友情のために

(親火は子火3に分火する)

○ 子火3

私たちは、このすばらしい友情をさらに深め、これからの人生をともに助け合い、励まし合っていくことを誓います。(礼)
--

(親火は子火4の前へ移動する)

○ 親火

(礼)一日一日に全力をつくすために

(親火は子火4に分火する)

○ 子火4

私たちは、一日一日を反省し、明日に向かって全力をつくし、くいのない毎日を過ごすように努めます。(礼)
--

(親火は自分の元の場所へ移動する)

4 迎え火のことば

○ 司会者

営火長は迎え火のことばをお願いします。

○ 営火長

日は沈み、南薩少年自然の家にも夜のとばりが静かにおりてきました。 今夜は、みなさんとうとうキャンプファイヤーを開くことができ大変うれしく思います。 今夜のキャンプファイヤーが、ここに集う皆さんの心と心の絆を結び、友情を深め、さらに今後の生活の向上につながるものとして、いつまでも心のアルバムに残るよう希望して迎え火のことばとします。
--

5 点火

○ 司会者

営火長は、点火の合図をお願いします。

○ 営火長

点火

・ 営火長、親火、子火1、子火2、子火3、子火4はファイヤーブロックに点火する。

(必要に応じて、CDラジカセ等を使って、「燃えろよ燃えろ」などのBGMを流し雰囲気を盛り上げる。)

6 退場

○ 司会者

- ・ 親火, 子火4, 子火3, 営火長, 子火2, 子火1の順番で導入通路に退場する。

○ 司会者

- ・ 導入通路の先で、火のついているトーチにぬれ雑巾などをかぶせる。

< 第2部:交歓のつどい >

○ 司会者

○ 司会者

< 第3部:送り火の式 >

- ・ 各係は, 導入通路にトーチを持って, 親火, 子火4, 子火3, 営火長, 子火2, 子火1の順に並び待機しておく。

1 採火

○ 司会者

- ・ 各係は, 間隔をあけてゆっくりと入ってきて, ファイヤーブロックを囲むようにしてスタンバイする。

○ 司会者

- ・ 営火長, 親火, 子火1, 子火2, 子火3, 子火4は, ファイヤーブロックから各自のトーチに火をもらう。

2 感謝のことば

○ 司会者

○ 感謝のことば係

3 送り火のことば

○ 司会者 　　

○ 営火長 　　今夜は、こうして楽しくキャンプファイヤーを開き、新たな感動を得ることができました。力強く、赤々と燃えていたファイヤーは徐々に小さくなりましたが、皆さんの胸の中には、今でも赤い火が燃えているはずです。
それは、皆さんの心と心の絆が結ばれひとつになった証です。きっと南薩少年自然の家の願いでもある「広い心・強い体・篤き志」にもつながっています。これからの学校生活や家庭、地域での生活に、この気持ちを大切に、力を合わせて生活してください。
このキャンプファイヤーの炎が、いつまでも変わらぬ情熱と友情の炎として、自分たちの心に燃え続けることを期待して送り火のことばとします。

4 営火退場

○ 司会者 　　

・親火、子火4、子火3、営火長、子火2、子火1の順番にゆっくり退場し、導入通路付近でアーチをつくる。

5 閉会のことば

○ 司会者 　　

○ 司会者 　　

・参加者は、列ごとに炎のアーチをくぐり抜けて、キャンプファイヤー場を退場する。

< 終了後の児童生徒への指導・連絡 >

- 退場したらそのまま炊飯棟に集まる。
- 引率代表者は、各係の子どもをねぎらい、就寝までと翌朝の連絡事項を伝える。
- 参加者は、周りが暗いので足元に気をつけてテントにもどり、就寝準備をする。

< 後片付け >

- キャンプファイヤーが終了したことを本館事務室の宿直者へ連絡する。
- ファイヤーブロックはそのまま燃え尽きさせ、就寝時間がきたらタン板をかぶせ、残り火の消火を確実にする。
※ 耐火レンガが傷むので水をかけての消火はしないこと
- 翌朝に燃え残りの薪や灰の処理をして、ほうきを使ってきれいに掃いて後片付けを行う。